附　属　資　料

評価指標と評価及び目標値の設定理由

大和市食育・歯及び口腔の健康づくりに関する市民意識調査概要

計画策定の経過・市民意見公募結果

大和市食育・歯及び口腔の健康づくり推進会議設置要領

用語解説

評価指標と評価及び目標値の設定理由

第２次大和市食育推進計画において、食育の基本目標達成の目安とするため、国や県の食育基本計画に掲げる指標を参考に３１の指標を設定しています。

【改善状況についての評価】

策定時の値と直近値を比較

- A　改善又は目標値達成
- B　変化なし又は維持
- C　悪化または低下
- －　対象外又は評価困難

※１％未満の増減は変化なしで判定

	評価指標		策定時 (H25～26年)	目標値 (H30年)	現状値 (H29～30年)	判定	目標値 (2023年)	評価及び目標値設定理由
施策１　家庭における食育の推進	ふだん誰かと一緒に食事をとる市民の割合	市民意識調査で、週に１食以上を家族や友人と食べると回答した市民の割合	82.2%	90.0%	77.6% (H30)	C	90%	男性における割合が比較的低い（男性 71.5％、女性 81.9%）ため、共食についての取り組みを進め、90%の方が誰かと一緒に食事をとることを目標としました。
	朝食をほぼ毎日食べている市民の割合 ①3歳6か月 ②小学5年 ③中学2年 ④成人	①3歳6か月児健診での問診結果 ②及び③平成25年度全国体力・運動能力運動習慣等調査結果 ④市民意識調査で、朝食をほぼ毎日食べていると回答した市民の割合	①88.8% ②85.5% ③83.0% ④84.8%	①100 % ②87.0% ③85.0% ④90.0%	①89.8% (H29) ②81.6% (H29) ③79.1% (H29) ④82.1% (H29)	①A ②C ③C ④C	①100 % ②90.0% ③90.0% ④90.0%	①幼少期の心身の発達及び食習慣確立の重要性を考慮して、100%に近づけることとしました。 ②及び③神奈川県におけるH29調査結果が小学5年生4.6%、中学2年生8.8%となっているため、県の数値に向け、年1%の上昇を目標としました。
	1日に2食以上、主食、主菜、副菜のそろった食事をしている市民の割合	市民意識調査で、1日に2食以上、主食、主菜、副菜のそろった食事をしていると回答した市民の割合	75.3%	90.0%	72.1% (H30)	C	80.0%	第3次神奈川県食育推進計画の「主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を心掛けている県民の割合80%以上」にならい、80%としました。
施策２　学校、保育所等における食育の推進	食に関する指導の実施状況	担任教諭、養護教諭、栄養教諭、栄養士等が食に関する指導を実施している小中学校の割合。（「食に関する指導」実施状況調査（神奈川県）結果）	92.8%	100%	100% (H29)	A	100%	現状で100%の小中学校で食に関する指導を実施しているため、現状を維持することを目標しました。
	栄養教諭、栄養士等による食に関する授業時間数	栄養教諭、栄養士等の専門職が実施している、食に関する授業の時間数（年間）。	236時間	242時間	225時間 (H29)	C	242時間	学校給食の単独調理校8校を年間17時間、受入校（小学校）11校を年間8時間、受入校（中学校）9校を年間2時間と設定しました。

	評価指標		策定時 (H25～26年)	目標値 (H30年)	現状値 (H29～30年)	判定	目標値 (2023年)	評価及び目標値設定理由
施策2　学校、保育所等における食育の推進	学校給食の残食率(主に野菜を使った料理) ①小学校 ②中学校	残食量／提供量（重さ）	①11% ②19%	① 8% ②16%	①10% (H29) ②12% (H29)	①A ②A	①8.8% ②10.8%	小学校については、過去5年間の最大値－最小値を年平均にすると約0.2%のため、1年あたり 0.2%の減を目標とし、中学校については、小学校と同程度の減少を目標としました。
	学校給食において地場産物を使用している割合	小中学校給食で使用している大和市内産及び神奈川県内産の食材の割合。 市内・県内産食材数／総食材数	12.8%	30.0%	20.2% (H29)	A	26.0%	大和市の農家の生産状況と、過去三年間の最小伸び率が年１%だったことから、年約１%の増を目標としました。
	保育所給食において地場産物を使用している割合	保育所給食で使用している大和市内産及び神奈川県内産の食材の割合。 市内・県内産食材数／総食材数	6.9%	13.0%	13.7% (H29)	A	14.0%	１食あたりの地場産物の使用品目を、現状より１品目増やすことを目標としました。
	食物アレルギー研修参加者の理解度 ①保育所 ②学校	食物アレルギー研修の参加者アンケートで、よく理解できたと答えた人の割合。	―	①80.0% ②80.0%	① 92.4% (H29) ② 100% (H29)	①A ②A	① 95.0% ② 100%	保育所においては、研修受講者の95%が、よく理解できる研修会の内容を維持していくこととしました。学校においては、現状値を維持することを目標にしました。
施策3　地域における食育の推進	食育の推進に関わるボランティアの人数	食生活改善推進員、学校における食育の取組への協力者の人数。	132人	増加	162人 (H30)	A	維持	食生活改善推進員の人数が減少傾向にあるため、現状を維持することを目標としました。
	食育に関心を持っている市民の割合	市民意識調査で、食育について関心がある、どちらかといえば関心があると答えた市民の割合。	77.4%	90.0%	74.1% (H30)	C	90.0%	国、県における第3次食育推進計画での目標値にならい、90%としました。
	食事バランスガイドを内容まで知っている市民の割合	市民意識調査で、食事バランスガイドを内容まで知っていると答えた市民の割合。	18.2%	23.0%	15.4% (H30)	C	20.0%	啓発活動を進めることで、現状値から年1.0%増加していくことを目標としました。
	食品の安全性に関する知識がある市民の割合	市民意識調査で、食品の安全性（食品の選択、調理法）についての知識がある、少しあると答えた市民の割合。	63.5%	90.0%	59.2% (H30)	C	90.0%	国が掲げる目標値 80%及び県が掲げる目標値 90%にならい、90%と設定しました。
	食料品選択にあたって栄養価を重視する市民の割合	市民意識調査で、食料品を選ぶときに重視することとして、栄養価を選んだ市民の割合。	20.5%	27.0%	21.4% (H30)	A	26.0%	啓発活動を進めることで、現状値から年1.0%増加することを目標としました。

	評価指標		策定時 (H25～26年)	目標値 (H30年)	現状値 (H29～30年)	判定	目標値 (2023年)	評価及び目標値設定理由
施策3 地域	食料品選択にあたって安全性を重視する市民の割合	市民意識調査で、食料品を選ぶときに重視することとして、安全性を選んだ市民の割合。	59.8%	90.0%	53.5% (H30)	C	80.0%	国が掲げる目標値にならい、80%と設定しました。
施策4 図書館をはじめとする多様な関係者と取り組む食育の推進	「ベジファースト・ラスト15」キャンペーンの取り組みを知っている者・実践している者の割合	市民意識調査で、「ベジファースト・ラスト15」キャンペーンの取り組みを知っている・実践していると回答したものの割合。	－	－	なし (H30)	－	増加	現状値を把握するものがないため、現状値より増加することを目標としました。
	やまと食の応援団に登録している飲食店の割合	やまと食の応援団事業の登録申請数。	－	－	32店 (H30)	－	100店	同規模の近隣市町村と比較し、実現可能な目標値としました。
	十分な量の野菜を食べている市民の割合	市民意識調査で、十分な量の野菜を食べていると思うと回答した市民の割合。 十分な量は、1回の食事で生野菜なら両手一杯、ゆでた野菜なら片手に軽く一杯。	44.7%	48.0%	44.9% (H30)	B	50.0%	十分な量の野菜を「平成28年度　国民健康・栄養調査」の4皿～5皿（43.3%）と比較するとほぼ国と同水準であることから、年1%の増加を目標としました。
	適切な食事内容、量をよく知っている市民の割合	市民意識調査で、適切な食事内容、量をよく知っている市民の割合。	55.1%	60.0%	48.9% (H30)	C	53.0%	啓発活動を進めることで、現状値から年1.0%程度増加することを目標としました。
	食育イベントの参加人数	やまと食育フェア等の食育イベントの参加人数。	－	－	870人 (H30)	－	増加	来場者数は天候などにより大幅に変動しますが、少しでも増加させることを目標としました。
施策5 地産地消や食を取り巻く環境に配慮した取り組み	食料品を選ぶときに、地場産品を重視する市民の割合	市民意識調査で、食料品を選ぶときに重視することとして、地場産品を選んだ市民の割合。	13.0%	17.0%	12.8% (H30)	B	17.0%	地場産品を重視する市民は、男性6.0%、女性17.4%であり、男性の割合が比較的低いことがうかがえます。毎年1%の増加で、全体を女性の水準まで高めることを目標としました。
	自分で野菜を作った経験がある市民の割合	市民意識調査で、自分で野菜を作った経験があると答えた市民の割合。	46.3%	50.0%	46.3% (H30)	B	50.0%	市民農園や朝霧市など、農業を知る機会を通して野菜作りへの興味、関心を喚起し、毎年1%の増加を目標としました。
	学校給食（単独調理校）の生ごみから作られるたい肥が活用されている量	学校給食（単独調理校）の生ごみから作られるたい肥が活用されている量。	8.3t	10.0t	6.6t (H29)	C	第2次では削除	学校給食での生ごみ量が減少したとにより、それから製造されるたい肥量は減少しています。現在、市内の公立学校に生ごみ処理機が設置されたことから、第2次計画では指標から削除しました。

	評価指標		策定時 (H25～26年)	目 標 値 (Ｈ３０ 年)	現状値 (H29～30年)	判 定	目 標 値 (２０２３ 年)	評価及び目標値設定理由
施策５ 環境	家庭用生ごみ処理容器等購入費用の助成申請件数	家庭用生ごみ処理容器（コンポスト式・電動式）の購入費用助成申請の件数。	120 件/年	120 件/年	88 件/年 (H29)	C	120 件/年	過去の実績から、年間 120 件程度を維持できれば、事業の目的を達成できると判断しました。
施策６ 食文化の継承に向けた食育の推進	学校、保育所給食における行事食の提供回数 ①保育所 ②学校	学校給食、保育所給食における行事食（日本の伝統的な行事）の提供回数。	① 8 回 ② 7 回	①10 回 ② 7 回	①10 回 (H29) ②9 回 (H29)	①A ②A	①11 回 ② 9 回	学校、保育所での行事食の提供回数を、それぞれの状況に応じて、維持又は増加させることを目標としました。
	食品の選択や調理に関して、行事食や伝統食についての知識を身につけたいと考えている市民の割合	市民意識調査で、食品の選択や調理に関して身につけたい知識として、行事食や伝統食を選択した市民の割合。	10.6%	15.0%	8.5% (H30)	C	14.0%	30～40 歳代の女性の割合が高い(30 歳代 24.3%,40 歳代 23.1%）ため、健診や料理教室を中心にＰＲを進め、女性と家族などへも関心を広げ、毎年 1%の増加を目標としました。
	やまと世界料理の屋台村への来場者数	やまと世界料理の屋台村に来場した方の人数。	約 6,000 人	増加	約 6,000 人	B	増加	来場者数は天候などにより大幅に変動しますが、少しでも増加させることを目標としました。
施策７ 健康寿命の延伸につながる食育の推進	メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合	大和市特定健康診査結果において、メタボリックシンドローム該当及び予備群と判定された者の割合。	26.3%	23.0%	28.4% (H29)	C	23.0%	メタボリックシンドロームの該当者とその予備軍を毎年 1%減少させることを目標としました。
	１日に 2 食以上、主食、主菜、副菜のそろった食事をしている市民の割合 ①65 歳未満 ②65 歳以上	市民意識調査で、1 日に 2 食以上、主食、主菜、副菜のそろった食事をしていると回答した市民の割合。 ①65 歳未満 ②65 歳以上	①70.0% ②87.9%	①90.0% ②90.0%	全体平均 72.1% ①60.3% ②90.6% (H30)	① C ② A	① 65.0% ② 90.0%	全体の平均では 72.1%と国の第３次食育推進計画の目標値である 70%以上を超えていますが、世代で分けて若干の増加を目標としました。
	汗をかく程度の運動を、週に1日以上している市民の割合	市民意識調査で、汗をかく程度の運動（ウォーキング、ジョギング、スポーツなど）を、週に 1 日以上していると回答した市民の割合。	52.3%	56.0%	51.0% (H30)	C	56.0%	国の目標値（「1 回 30 分以上の運動を週 2 回以上実施し、1 年以上継続しているもの」20～64 歳男性 36%、女性 33%、65 歳以上男性 58%、女性 48% 県の目標値「成人の運動習慣者（1 回 30 分、週 2 回以上の運動を 1 年以上継続している者）20～59 歳男性 39%、女性 38%、60 歳以上男性 66%、女性 50%」）を超えている年代もありますが、生活習慣病予防と健康増進を進めるため、全体で年 1%の増加を目標としました。

	評価指標		策定時 (H25～26年)	目 標 値 (Ｈ３０ 年)	現状値 (H29～30年)	判 定	目 標 値 (２０２３ 年)	評価及び目標値設定理由
施策７ 健康寿命の延伸につながる食育の推進	65 歳以上で低栄養状態のおそれのある市民の割合	ＢＭＩが 18.5kg/㎡未満で、半年間で2～3kg以上体重が減少した者の割合。(H28 年度大和市介護予防アンケート結果より)	1.1%	1.0%	1.3% (H29)	B	1.0%	今後 65 歳以上の人口は増えることから、低栄養状態の市民を 0.3%減少させることを目標としました。
	65 歳以上で低栄養状態が改善された市民の割合	介護予防アンケートまたは健診結果から抽出し、管理栄養士が訪問したことにより改善した割合。	30.0%	35.0%	40.3% (H29)	A	40.0%	平成 29 年度の活動実績に鑑み、65 歳以上での低栄養状態の改善率を維持することを目標としました。

大和市食育・歯及び口腔の健康づくりに関する市民意識調査結果（概要）

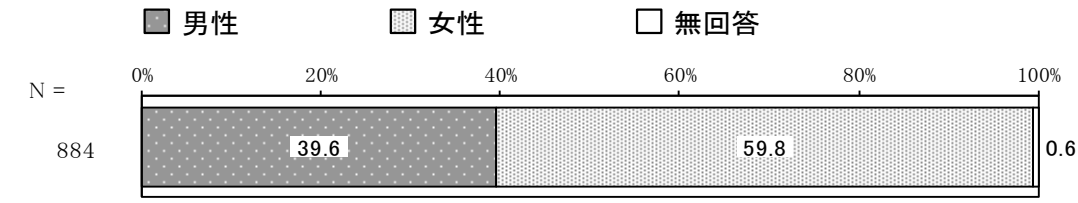
■調査設計

調査地域：大和市全域
調査対象：大和市に居住する 16 歳以上の男女
標 本 数：2,500 人
抽出方法：住民基本台帳にもとづく単純無作為抽出
回 収 数：884 人（有効回収率：35.4%）
調査方法：郵送調査法
調査時期：平成 30 年 5 月下旬～6 月上旬

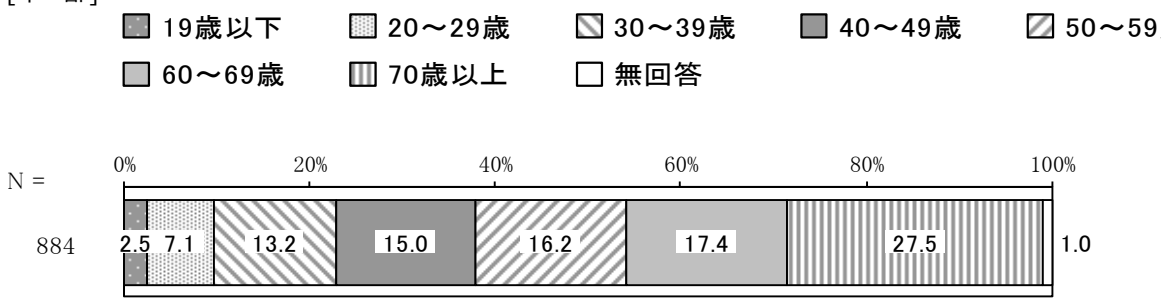
■調査結果

（1）回答者の属性

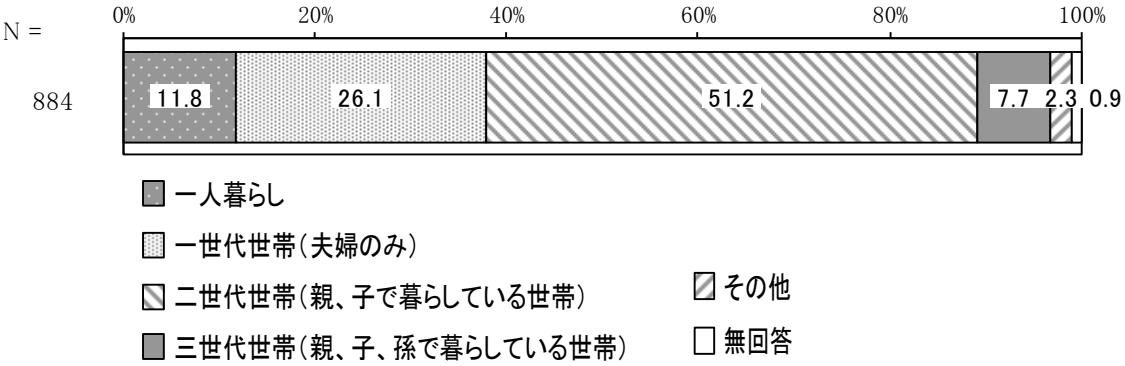
[性　別]



[年　齢]

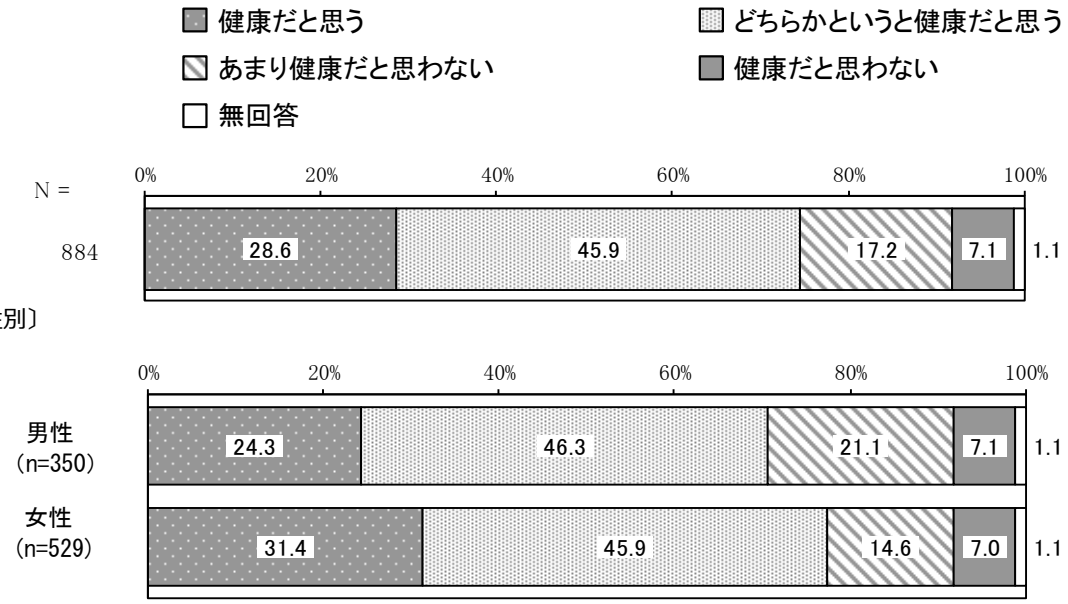


[世帯構成]



（２）食育に関わる内容について

1　あなたは、自分自身が健康だと思いますか。

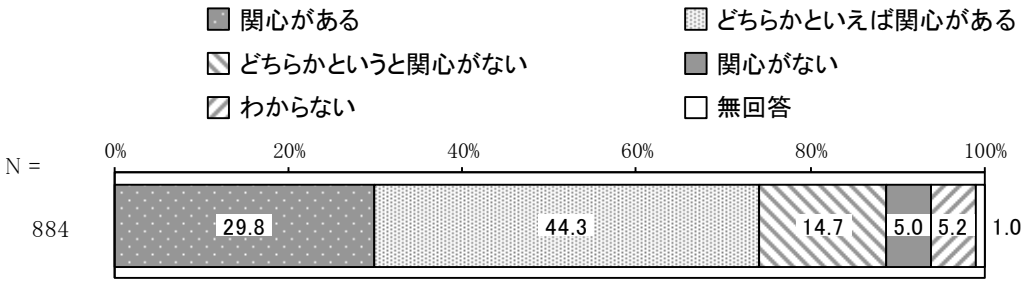


〔性・年齢別〕

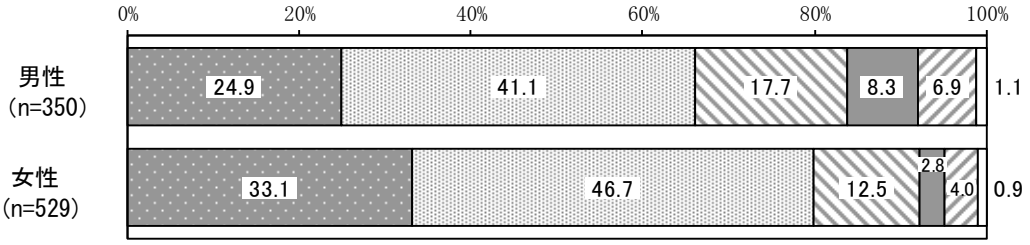
		健康だと思う	どちらかというと健康だと思う	あまり健康だと思わない	健康だと思わない	無回答
男性	19歳以下 (n = 7)	42.9	14.3	42.9	−	−
	20～29歳 (n = 20)	55.0	35.0	10.0	−	−
	30～39歳 (n = 47)	25.5	46.8	19.1	8.5	−
	40～49歳 (n = 55)	21.8	52.7	21.8	3.6	−
	50～59歳 (n = 55)	10.9	45.5	34.5	7.3	1.8
	60～69歳 (n = 60)	26.7	60.0	6.7	5.0	1.7
	70歳以上 (n = 103)	24.3	37.9	24.3	11.7	1.9
女性	19歳以下 (n = 15)	33.3	66.7	−	−	−
	20～29歳 (n = 41)	39.0	48.8	7.3	4.9	−
	30～39歳 (n = 70)	28.6	58.6	10.0	2.9	−
	40～49歳 (n = 78)	30.8	47.4	11.5	9.0	1.3
	50～59歳 (n = 88)	27.3	45.5	18.2	9.1	−
	60～69歳 (n = 94)	30.9	40.4	19.1	5.3	4.3
	70歳以上 (n = 140)	33.6	40.7	17.1	8.6	−

「健康だと思う」と「どちらかというと健康だと思う」を合わせた“健康だと思う”の割合が 74.5%、「あまり健康だと思わない」と「健康だと思わない」を合わせた“健康だと思わない”の割合が 24.3%となっています。性・年齢別にみると、男女とも 29 歳以下では「健康だと思う」が 4 割以上と多くなっています。

2　食育について関心がありますか。



〔性別〕



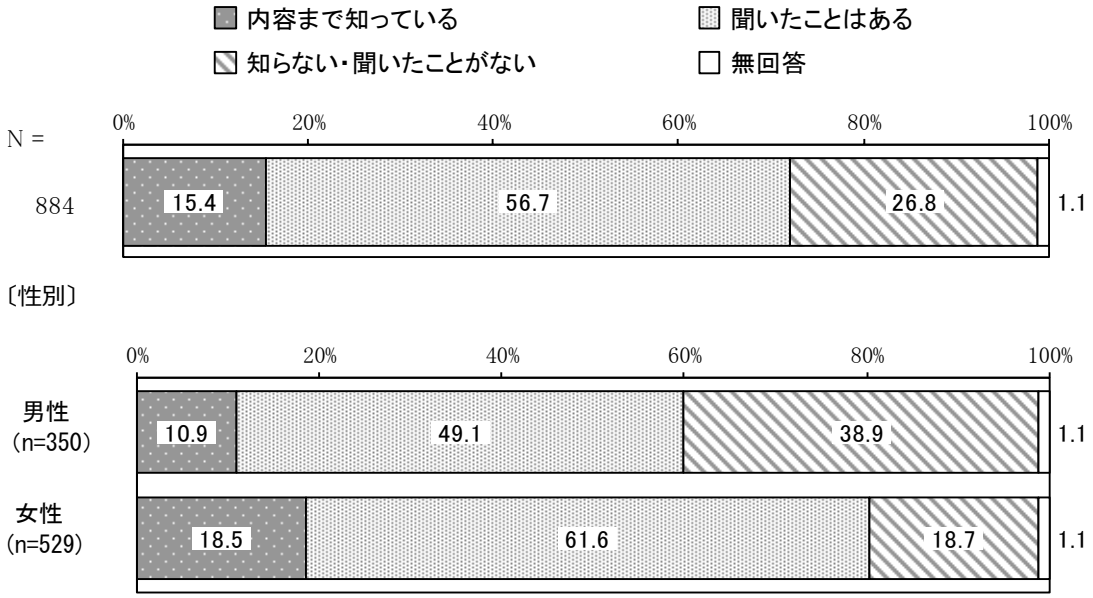
〔性・年齢別〕

		関心がある	どちらかといえば関心がある	どちらかというと関心がない	関心がない	わからない	無回答
男性	19歳以下 (n = 7)	−	42.9	14.3	42.9	−	−
	20～29歳 (n = 20)	40.0	25.0	10.0	15.0	10.0	−
	30～39歳 (n = 47)	36.2	44.7	4.3	10.6	4.3	−
	40～49歳 (n = 55)	14.5	38.2	23.6	12.7	10.9	−
	50～59歳 (n = 55)	25.5	29.1	29.1	5.5	9.1	1.8
	60～69歳 (n = 60)	21.7	46.7	20.0	5.0	5.0	1.7
	70歳以上 (n = 103)	25.2	47.6	15.5	3.9	5.8	1.9
女性	19歳以下 (n = 15)	6.7	53.3	13.3	20.0	6.7	−
	20～29歳 (n = 41)	34.1	36.6	19.5	2.4	7.3	−
	30～39歳 (n = 70)	25.7	45.7	17.1	5.7	5.7	−
	40～49歳 (n = 78)	25.6	59.0	7.7	2.6	3.8	1.3
	50～59歳 (n = 88)	38.6	45.5	11.4	1.1	3.4	−
	60～69歳 (n = 94)	40.4	42.6	11.7	3.2	1.1	1.1
	70歳以上 (n = 140)	35.7	45.7	11.4	0.7	4.3	2.1

「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた“関心がある”の割合が 74.1%、「どちらかというと関心がない」と「関心がない」を合わせた“関心がない”の割合が 19.7%となっています。

3　食事バランスガイドを知っていますか。

食事バランスガイド：主食（ごはん、パン、麺など）、主菜（魚や肉などのおかず）、副菜（野菜などのおかず）などを１日にどれだけ食べたらよいかの目安を表したものです。

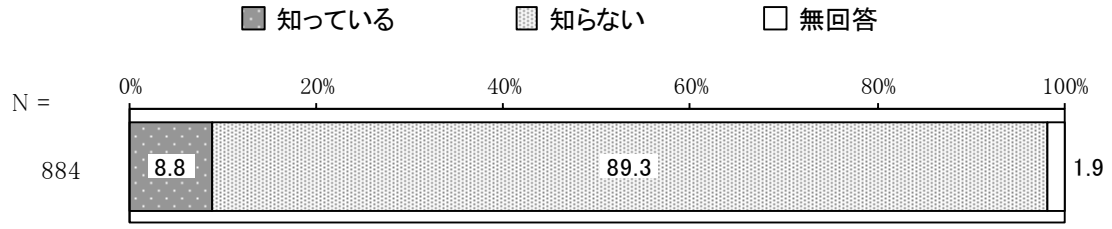


〔性・年齢別〕

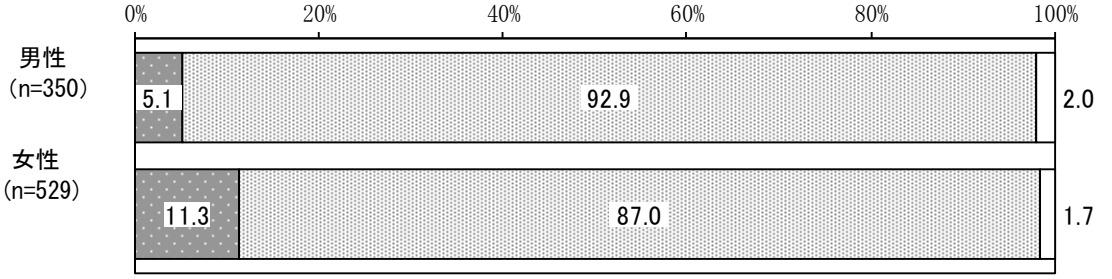
		内容まで知っている	聞いたことはある	知らない・聞いたことがない	無回答
男性	19歳以下 (n = 7)	28.6	42.9	28.6	−
	20～29歳 (n = 20)	15.0	50.0	35.0	−
	30～39歳 (n = 47)	10.6	51.1	38.3	−
	40～49歳 (n = 55)	5.5	29.1	65.5	−
	50～59歳 (n = 55)	12.7	45.5	40.0	1.8
	60～69歳 (n = 60)	6.7	53.3	38.3	1.7
	70歳以上 (n = 103)	13.6	59.2	25.2	1.9
女性	19歳以下 (n = 15)	20.0	46.7	33.3	−
	20～29歳 (n = 41)	17.1	53.7	29.3	−
	30～39歳 (n = 70)	18.6	54.3	27.1	−
	40～49歳 (n = 78)	15.4	60.3	23.1	1.3
	50～59歳 (n = 88)	17.0	67.0	15.9	−
	60～69歳 (n = 94)	17.0	67.0	14.9	1.1
	70歳以上 (n = 140)	22.1	63.6	11.4	2.9

「聞いたことはある」の割合が 56.7%と最も高く、次いで「知らない・聞いたことがない」の割合が 26.8%、「内容まで知っている」の割合が 15.4%となっています。

3　あなたは「大和市食育推進計画」を知っていますか。



〔性別〕



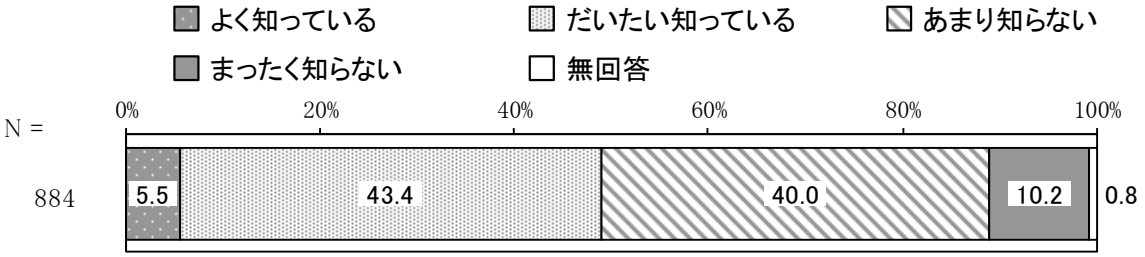
〔性・年齢別〕

		知っている	知らない	無回答
男性	19歳以下 (n = 7)	–	85.7	14.3
	20～29歳 (n = 20)	–	100.0	–
	30～39歳 (n = 47)	–	100.0	–
	40～49歳 (n = 55)	3.6	96.4	–
	50～59歳 (n = 55)	5.5	92.7	1.8
	60～69歳 (n = 60)	10.0	88.3	1.7
	70歳以上 (n = 103)	6.8	89.3	3.9
女性	19歳以下 (n = 15)	–	100.0	–
	20～29歳 (n = 41)	4.9	95.1	–
	30～39歳 (n = 70)	8.6	91.4	–
	40～49歳 (n = 78)	7.7	91.0	1.3
	50～59歳 (n = 88)	10.2	89.8	–
	60～69歳 (n = 94)	14.9	83.0	2.1
	70歳以上 (n = 140)	16.4	79.3	4.3

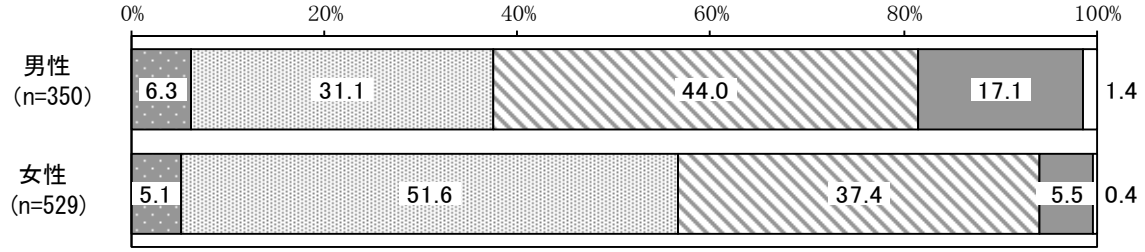
「知っている」の割合が 8.8%、「知らない」の割合が 89.3%となっています。

（３）食生活について

1　あなたにとっての適切な食事内容、量(必要なカロリー、栄養バランスなど)を知っていますか。



〔性別〕



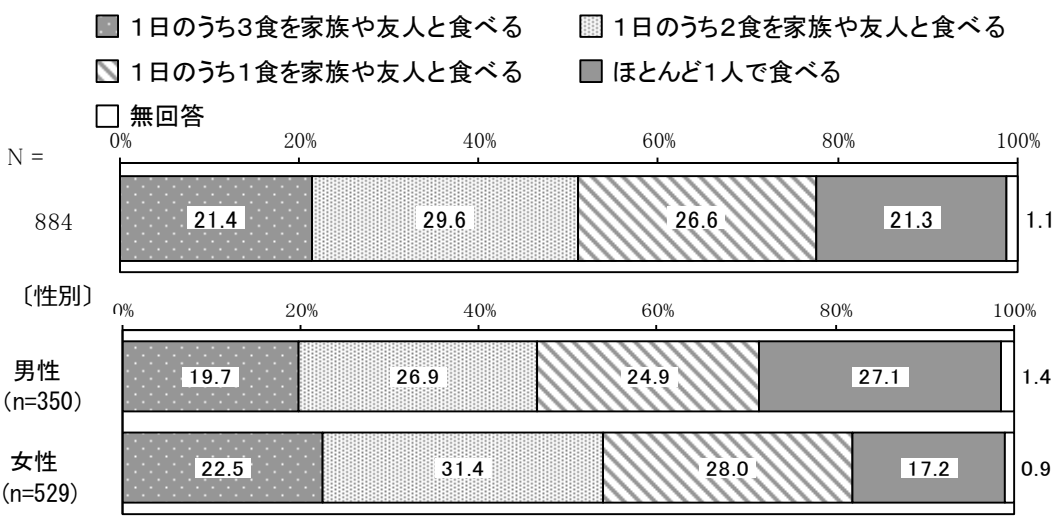
〔年齢別〕

		よく知っている	だいたい知っている	あまり知らない	まったく知らない	無回答
男性	19歳以下 (n = 7)	－	28.6	42.9	28.6	－
	20～29歳 (n = 20)	20.0	20.0	50.0	10.0	－
	30～39歳 (n = 47)	6.4	38.3	40.4	14.9	－
	40～49歳 (n = 55)	－	20.0	49.1	30.9	－
	50～59歳 (n = 55)	9.1	20.0	45.5	23.6	1.8
	60～69歳 (n = 60)	3.3	36.7	35.0	23.3	1.7
	70歳以上 (n = 103)	7.8	39.8	45.6	3.9	2.9
女性	19歳以下 (n = 15)	－	46.7	40.0	13.3	－
	20～29歳 (n = 41)	2.4	51.2	36.6	9.8	－
	30～39歳 (n = 70)	4.3	40.0	42.9	12.9	－
	40～49歳 (n = 78)	1.3	51.3	41.0	5.1	1.3
	50～59歳 (n = 88)	4.5	59.1	33.0	3.4	－
	60～69歳 (n = 94)	8.5	50.0	38.3	3.2	－
	70歳以上 (n = 140)	7.1	54.3	35.0	2.9	0.7

「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせた“知っている”の割合が 48.9%、「あまり知らない」と「まったく知らない」を合わせた“知らない”の割合が 50.2%となっています。

性別にみると、「よく知っている」「だいたい知っている」を合わせた“知っている”は男性 37.4%に対し、女性 56.7%と差がみられます。

2　ふだん誰かと一緒に食事をしていますか。



〔性・年齢別〕

		1日のうち3食を家族や友人と食べる	1日のうち2食を家族や友人と食べる	1日のうち1食を家族や友人と食べる	ほとんど1人で食べる	無回答
男性	19歳以下 (n = 7)	14.3	57.1	14.3	14.3	−
	20～29歳 (n = 20)	20.0	30.0	20.0	30.0	−
	30～39歳 (n = 47)	4.3	21.3	44.7	29.8	−
	40～49歳 (n = 55)	−	27.3	40.0	32.7	−
	50～59歳 (n = 55)	5.5	18.2	32.7	41.8	1.8
	60～69歳 (n = 60)	23.3	30.0	25.0	20.0	1.7
	70歳以上 (n = 103)	42.7	30.1	5.8	18.4	2.9
女性	19歳以下 (n = 15)	53.3	20.0	20.0	6.7	−
	20～29歳 (n = 41)	9.8	24.4	43.9	22.0	−
	30～39歳 (n = 70)	22.9	42.9	28.6	5.7	−
	40～49歳 (n = 78)	7.7	43.6	32.1	15.4	1.3
	50～59歳 (n = 88)	15.9	26.1	39.8	18.2	−
	60～69歳 (n = 94)	23.4	30.9	26.6	18.1	1.1
	70歳以上 (n = 140)	35.0	25.0	15.0	22.9	2.1

〔世帯構成別〕

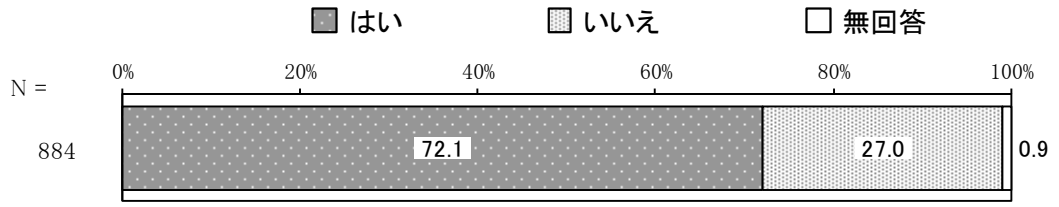
	1日のうち3食を家族や友人と食べる	1日のうち2食を家族や友人と食べる	1日のうち1食を家族や友人と食べる	ほとんど1人で食べる	無回答
一人暮らし (n = 104)	−	1.0	12.5	85.6	1.0
一世代世帯 (n = 231)	36.8	34.2	17.3	10.0	1.7
二世代世帯 (n = 453)	17.2	34.2	33.8	14.1	0.7
三世代世帯 (n = 68)	26.5	35.3	32.4	5.9	−
その他 (n = 20)	20.0	10.0	30.0	30.0	10.0

食事をする際に「１日のうち２食を家族や友人と食べる」の割合が 29.6%と最も高く、次いで「１日のうち１食を家族や友人と食べる」の割合が 26.6%、「１日のうち３食を家族や友人と食べる」の割合が 21.4%となっています。一方で、「ほとんど１人で食べる」人も 21.3%います。

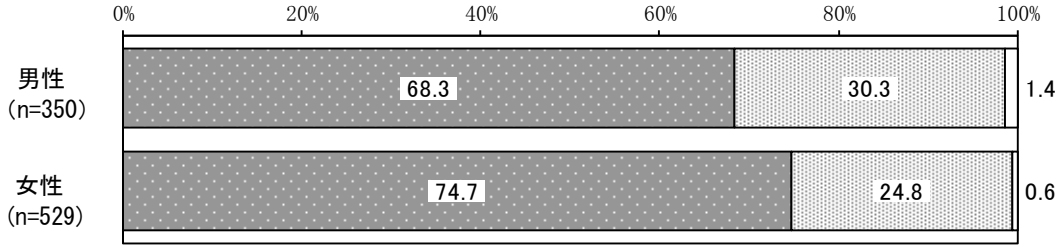
性・年齢別にみると、男性は全世代を通じ、「ほとんど１人で食べる」人は約２割おり、特に 50 歳代では、家族や友人と一緒の食事機会の少なさが目立っています。

世帯構成別にみると、一人暮らしの人の約 86%は、「ほとんど１人で食べる」となっています。

3　1日2食以上、主食・主菜・副菜のそろった食事をしていますか。
（主食は、ごはん、パン、麺など。主菜は、魚や肉などのおかず。副菜は、野菜などのおかず）



〔性別〕



〔性・年齢別〕

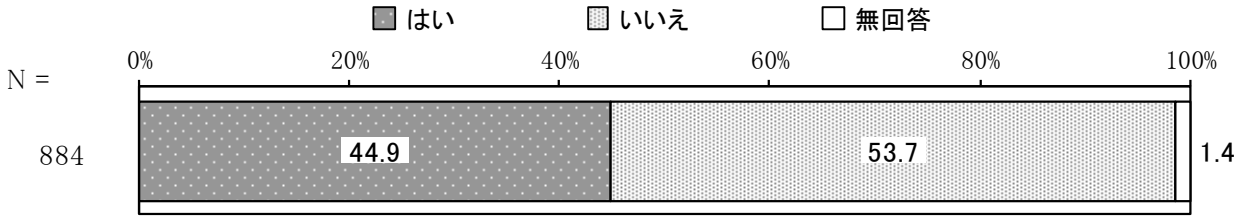
		はい	いいえ	無回答
男性	19歳以下 (n = 7)	57.1	42.9	−
	20～29歳 (n = 20)	60.0	40.0	−
	30～39歳 (n = 47)	44.7	55.3	−
	40～49歳 (n = 55)	60.0	40.0	−
	50～59歳 (n = 55)	49.1	49.1	1.8
	60～69歳 (n = 60)	83.3	15.0	1.7
	70歳以上 (n = 103)	87.4	9.7	2.9
女性	19歳以下 (n = 15)	60.0	40.0	−
	20～29歳 (n = 41)	46.3	53.7	−
	30～39歳 (n = 70)	55.7	44.3	−
	40～49歳 (n = 78)	65.4	32.1	2.6
	50～59歳 (n = 88)	73.9	26.1	−
	60～69歳 (n = 94)	84.0	16.0	−
	70歳以上 (n = 140)	93.6	5.7	0.7

〔世帯構成別〕

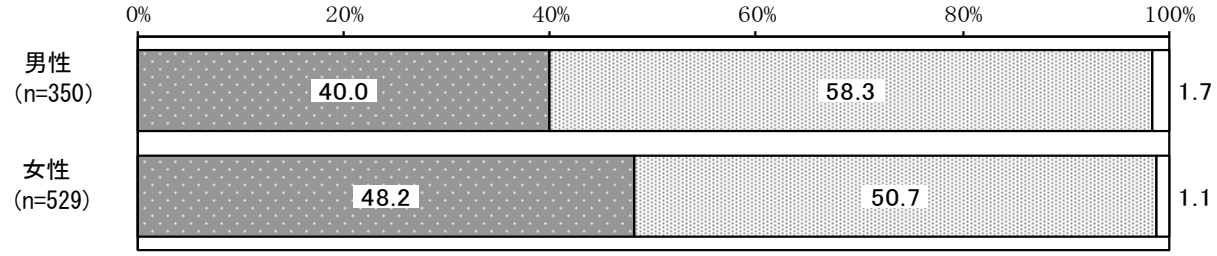
	はい	いいえ	無回答
一人暮らし (n = 104)	65.4	33.7	1.0
一世代世帯 (n = 231)	81.0	17.3	1.7
二世代世帯 (n = 453)	69.1	30.5	0.4
三世代世帯 (n = 68)	73.5	26.5	−
その他 (n = 20)	70.0	25.0	5.0

主食・主菜・副菜のそろった食事をしている人割合は72.1%と、約4人に3人の割合となっています。
性・年齢別にみると、男性は30歳代で44.7%、女性は20歳代で46.3%と、主食・主菜・副菜のそろった食事をしている人が少なくなっています。世帯構成別にみると、一人暮らしの人は、主食・主菜・副菜のそろった食事をしている人が約3割となっており、他と比べやや高くなっています。

4　あなたは十分な量の野菜を食べていると思いますか。
（十分な量の目安は、1 回の食事で生野菜なら両手一杯、ゆでた野菜なら片手に軽く一杯）



〔性別〕



〔性・年齢別〕

		はい	いいえ	無回答
男性	19歳以下 (n = 7)	28.6	71.4	−
	20～29歳 (n = 20)	15.0	85.0	−
	30～39歳 (n = 47)	40.4	59.6	−
	40～49歳 (n = 55)	36.4	61.8	1.8
	50～59歳 (n = 55)	29.1	69.1	1.8
	60～69歳 (n = 60)	41.7	56.7	1.7
	70歳以上 (n = 103)	52.4	44.7	2.9
女性	19歳以下 (n = 15)	40.0	60.0	−
	20～29歳 (n = 41)	29.3	70.7	−
	30～39歳 (n = 70)	32.9	65.7	1.4
	40～49歳 (n = 78)	41.0	57.7	1.3
	50～59歳 (n = 88)	56.8	43.2	−
	60～69歳 (n = 94)	48.9	48.9	2.1
	70歳以上 (n = 140)	60.0	38.6	1.4

〔世帯構成別〕

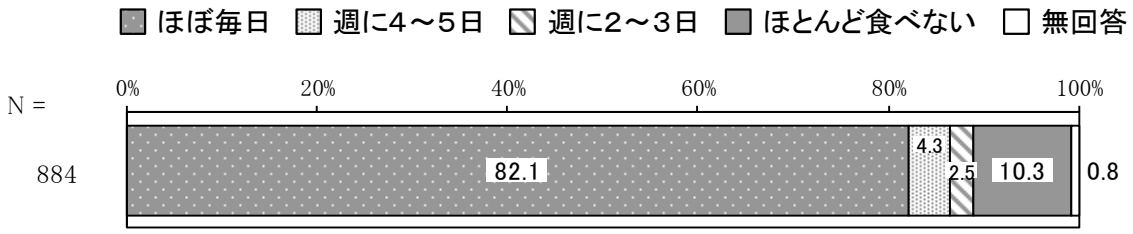
	はい	いいえ	無回答
一人暮らし (n = 104)	42.3	56.7	1.0
一世代世帯 (n = 231)	54.1	43.7	2.2
二世代世帯 (n = 453)	41.9	57.2	0.9
三世代世帯 (n = 68)	38.2	61.8	−
その他 (n = 20)	40.0	50.0	10.0

〔健康観別〕

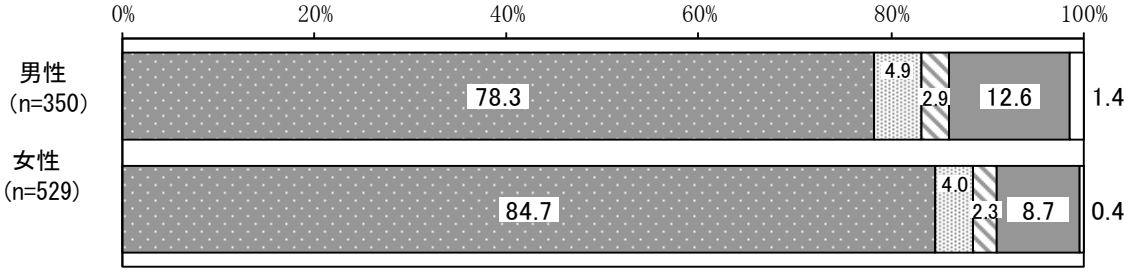
	はい	いいえ	無回答
健康だと思う (n = 253)	59.3	39.9	0.8
どちらかというと健康だと思う (n = 406)	42.1	57.1	0.7
あまり健康だと思わない (n = 152)	34.2	64.5	1.3
健康だと思わない (n = 63)	31.7	68.3	−

「はい」の割合が 44.9%と半数を切っています。性・年齢別にみると、男性 20 歳代では、十分な野菜を食べているとしている人は 2 割以下となっています。世帯構成別にみると、一人暮らしでは十分な野菜を食べているとしている人は 42.3%と少なくなっています。健康観別にみると、健康だと思わない人は、十分な野菜を食べているとしている人は 31.7%となっています。

5　あなたは朝食を食べていますか。



〔性別〕

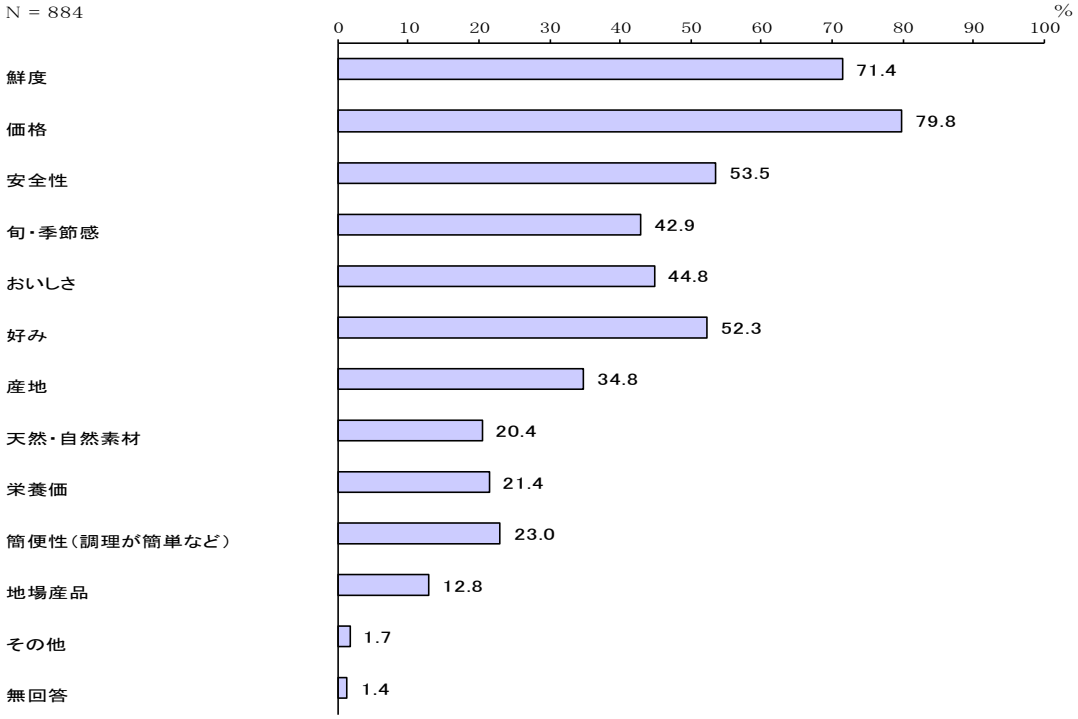


〔性・年齢別〕

		ほぼ毎日	週に4～5日	週に2～3日	ほとんど食べない	無回答
男性	19歳以下 (n = 7)	100.0	－	－	－	－
	20～29歳 (n = 20)	50.0	10.0	5.0	35.0	－
	30～39歳 (n = 47)	78.7	6.4	4.3	10.6	－
	40～49歳 (n = 55)	67.3	9.1	3.6	20.0	－
	50～59歳 (n = 55)	67.3	10.9	1.8	18.2	1.8
	60～69歳 (n = 60)	86.7	1.7	3.3	8.3	－
	70歳以上 (n = 103)	88.3	－	1.9	5.8	3.9
女性	19歳以下 (n = 15)	86.7	13.3	－	－	－
	20～29歳 (n = 41)	61.0	12.2	2.4	24.4	－
	30～39歳 (n = 70)	75.7	4.3	2.9	15.7	1.4
	40～49歳 (n = 78)	82.1	6.4	2.6	9.0	－
	50～59歳 (n = 88)	88.6	1.1	2.3	8.0	－
	60～69歳 (n = 94)	83.0	4.3	5.3	7.4	－
	70歳以上 (n = 140)	96.4	0.7	－	2.1	0.7

朝食は「ほぼ毎日」食べているとする人が 82.1%と多数を占めていますが、次いで「ほとんど食べない」の割合が 10.3%となっています。性・年齢別にみると、男女とも 20 歳代より若い世代で「ほとんど食べない」とする人が 2 割をこえています。

6　食料品を選ぶときに、重視することは何ですか。



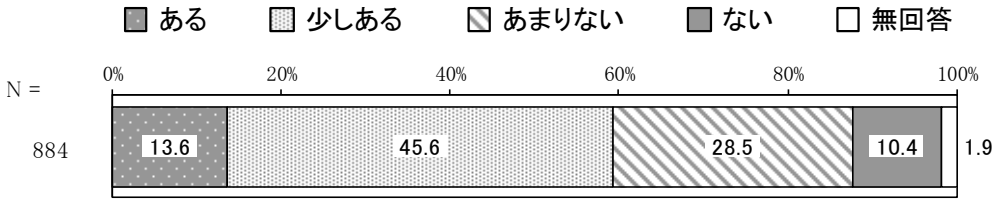
〔性別〕

		鮮度	価格	安全性	旬・季節感	おいしさ	好み	産地	天然・自然素材	栄養価	簡便性（調理が簡単など）	地場産品	その他	無回答
性別	男性（n = 350）	58.3	75.4	38.6	24.6	41.1	54.0	20.6	11.1	16.6	20.3	6.0	2.6	2.6
	女性（n = 529）	80.2	82.8	63.5	55.4	47.4	51.4	44.4	26.7	24.6	25.0	17.4	1.1	0.6
男性	19歳以下（n = 7）	14.3	42.9	14.3	−	57.1	71.4	−	−	−	14.3	−	−	−
	20～29歳（n = 20）	30.0	85.0	20.0	15.0	60.0	60.0	15.0	10.0	30.0	25.0	−	−	5.0
	30～39歳（n = 47）	48.9	83.0	34.0	27.7	55.3	63.8	19.1	12.8	21.3	25.5	6.4	2.1	−
	40～49歳（n = 55）	60.0	87.3	36.4	21.8	34.5	50.9	27.3	10.9	10.9	9.1	7.3	−	1.8
	50～59歳（n = 55）	52.7	90.9	38.2	21.8	43.6	63.6	14.5	5.5	10.9	29.1	1.8	5.5	−
	60～69歳（n = 60）	68.3	66.7	45.0	33.3	36.7	51.7	25.0	11.7	11.7	21.7	10.0	1.7	3.3
	70歳以上（n = 103）	68.0	64.1	44.7	25.2	35.9	44.7	21.4	14.6	22.3	18.4	6.8	3.9	4.9
女性	19歳以下（n = 15）	46.7	66.7	33.3	20.0	53.3	73.3	13.3	6.7	−	26.7	−	6.7	−
	20～29歳（n = 41）	43.9	92.7	31.7	43.9	56.1	82.9	19.5	9.8	24.4	39.0	2.4	−	−
	30～39歳（n = 70）	71.4	94.3	45.7	40.0	40.0	61.4	40.0	10.0	15.7	40.0	5.7	2.9	−
	40～49歳（n = 78）	76.9	92.3	61.5	53.8	53.8	51.3	51.3	23.1	23.1	29.5	12.8	−	−
	50～59歳（n = 88）	86.4	89.8	70.5	63.6	51.1	51.1	53.4	31.8	23.9	25.0	21.6	1.1	−
	60～69歳（n = 94）	88.3	72.3	75.5	61.7	46.8	40.4	47.9	35.1	28.7	16.0	24.5	1.1	2.1
	70歳以上（n = 140）	90.7	73.6	74.3	61.4	42.1	42.1	45.7	35.7	30.0	17.1	25.0	0.7	0.7

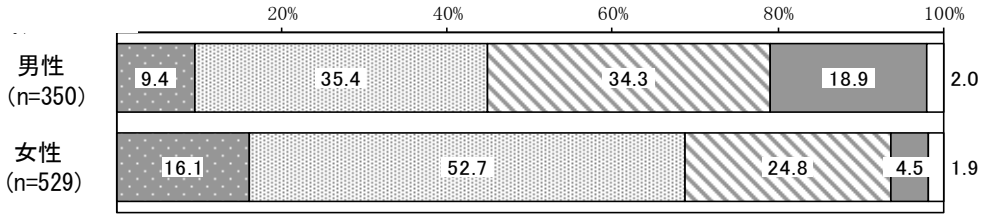
食料品選択にあたっての重視点としては、「価格」（79.8%）と「鮮度」（71.4%）が 70%と多数を占め、以下、「安全性」（53.5%）、「好み」（52.3%）、「おいしさ」（44.8%）がつづいています。

性別にみると、男性は女性に比べ「鮮度」、「旬・季節感」、「産地」をあげる人が少ないです。また、性・年齢別にみると、女性 40 歳以上では「鮮度」や「旬・季節感」をはじめ重視している項目は多岐にわたっています。

7　食品の安全性について、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択するとよいかや、どのような調理が必要かについての知識があると思いますか。



〔性別〕

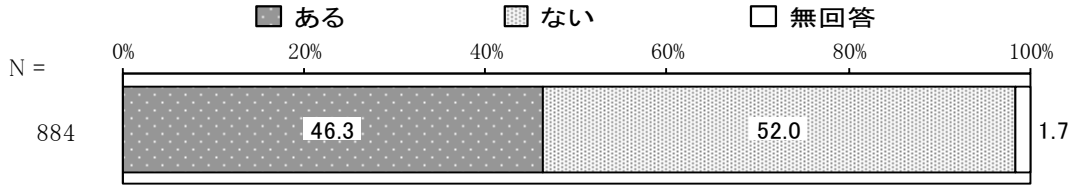


〔性・年齢別〕

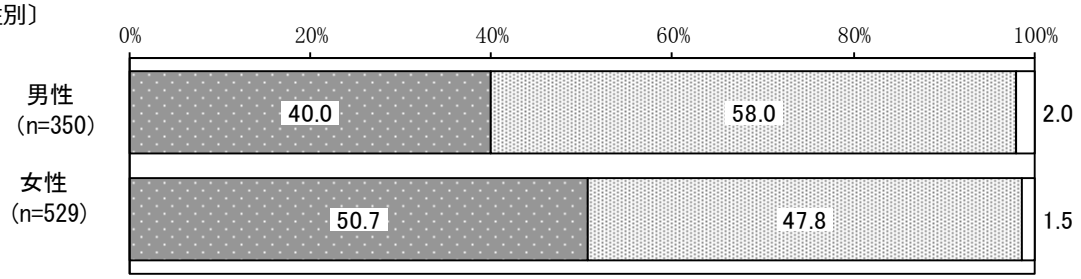
		ある	少しある	あまりない	ない	無回答
男性	19歳以下 (n = 7)	−	14.3	57.1	28.6	−
	20～29歳 (n = 20)	15.0	20.0	50.0	10.0	5.0
	30～39歳 (n = 47)	4.3	38.3	36.2	19.1	2.1
	40～49歳 (n = 55)	−	29.1	34.5	34.5	1.8
	50～59歳 (n = 55)	7.3	29.1	40.0	23.6	−
	60～69歳 (n = 60)	13.3	36.7	31.7	18.3	−
	70歳以上 (n = 103)	15.5	44.7	26.2	9.7	3.9
女性	19歳以下 (n = 15)	6.7	46.7	20.0	26.7	−
	20～29歳 (n = 41)	7.3	36.6	48.8	7.3	−
	30～39歳 (n = 70)	4.3	40.0	44.3	11.4	−
	40～49歳 (n = 78)	6.4	57.7	32.1	3.8	−
	50～59歳 (n = 88)	15.9	58.0	25.0	1.1	−
	60～69歳 (n = 94)	19.1	59.6	16.0	1.1	4.3
	70歳以上 (n = 140)	28.6	54.3	10.0	2.9	4.3

食品の安全性に関する知識について、「ある」と「少しある」を合わせた“ある”の割合が 59.2%、「あまりない」と「ない」を合わせた“ない”の割合が 38.9%となっています。性別にみると、「ある」「少しある」を合わせた“ある”との回答は、男性 44.8%に対し、女性 68.8%と大きな差がみられます。性・年齢別にみると、男性 20 歳代で「ある」と「少しある」を合わせた“ある”との回答は 35.0%にとどまっています。

8　自分で野菜を作った経験（家庭菜園などを含む）はありますか。



〔性別〕

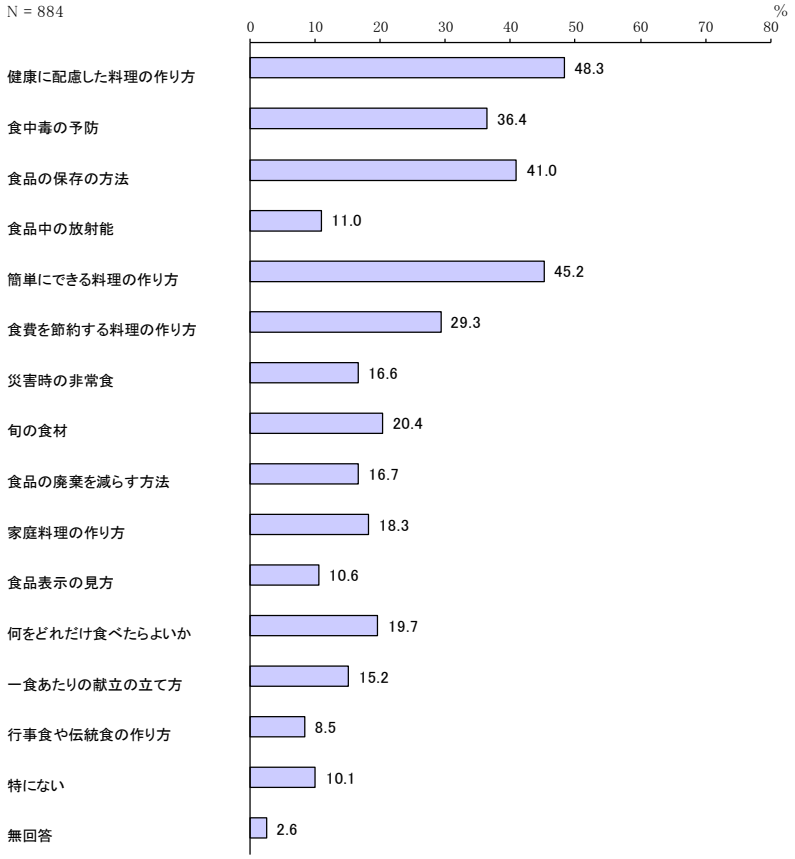


〔性・年齢別〕

		ある	ない	無回答
男性	19歳以下 (n = 7)	28.6	71.4	−
	20～29歳 (n = 20)	20.0	75.0	5.0
	30～39歳 (n = 47)	38.3	59.6	2.1
	40～49歳 (n = 55)	41.8	58.2	−
	50～59歳 (n = 55)	34.5	65.5	−
	60～69歳 (n = 60)	50.0	50.0	−
	70歳以上 (n = 103)	41.7	53.4	4.9
女性	19歳以下 (n = 15)	60.0	40.0	−
	20～29歳 (n = 41)	39.0	61.0	−
	30～39歳 (n = 70)	47.1	48.6	4.3
	40～49歳 (n = 78)	50.0	50.0	−
	50～59歳 (n = 88)	61.4	37.5	1.1
	60～69歳 (n = 94)	55.3	43.6	1.1
	70歳以上 (n = 140)	45.0	52.9	2.1

自分で野菜を作った経験が「ある」としている人は 46.3%となっています。性・年齢別にみると、男性 29 歳以下で「ある」との回答は 20%と低い割合となっています。

9　食品の選択や調理について、身につけたい知識は何ですか。



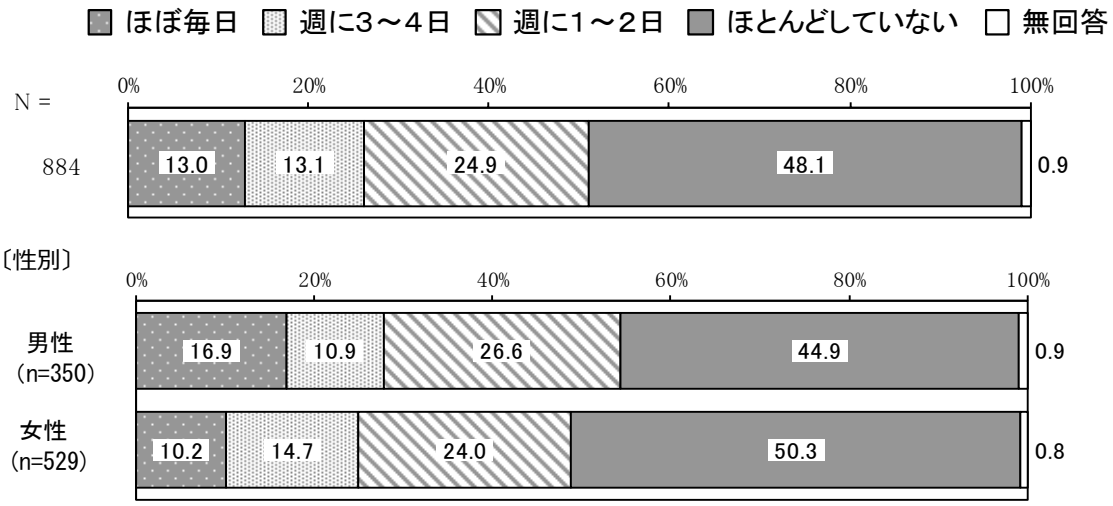
〔性・年齢別〕

		健康に配慮した料理の作り方	食中毒の予防	食品の保存の方法	食品中の放射能	簡単にできる料理の作り方	食費を節約する料理の作り方	災害時の非常食	旬の食材	食品の廃棄を減らす方法	家庭料理の作り方	食品表示の見方	何をどれだけ食べたらよいか	一食あたりの献立の立て方	行事食や伝統食の作り方	特にない	無回答
性別	男性 (n = 350)	38.0	32.0	30.9	8.0	34.3	21.4	13.4	12.3	11.1	13.7	8.9	18.6	8.3	2.9	16.9	4.6
	女性 (n = 529)	55.4	39.1	47.8	13.0	52.7	34.8	18.9	25.7	20.6	21.4	11.9	20.6	19.8	12.3	5.7	1.3
男性	19歳以下 (n = 7)	42.9	28.6	14.3	−	28.6	−	28.6	−	−	−	−	14.3	−	−	42.9	−
	20～29歳 (n = 20)	20.0	25.0	25.0	5.0	45.0	25.0	20.0	15.0	10.0	15.0	5.0	25.0	5.0	−	15.0	5.0
	30～39歳 (n = 47)	55.3	29.8	38.3	14.9	42.6	29.8	10.6	19.1	10.6	21.3	12.8	10.6	12.8	14.9	10.6	−
	40～49歳 (n = 55)	29.1	41.8	34.5	16.4	38.2	34.5	23.6	12.7	18.2	9.1	3.6	27.3	12.7	1.8	14.5	3.6
	50～59歳 (n = 55)	41.8	29.1	20.0	7.3	36.4	21.8	10.9	3.6	14.5	16.4	7.3	23.6	7.3	1.8	20.0	−
	60～69歳 (n = 60)	35.0	36.7	33.3	5.0	28.3	10.0	15.0	16.7	10.0	11.7	15.0	16.7	8.3	−	23.3	1.7
	70歳以上 (n = 103)	37.9	28.2	33.0	3.9	30.1	18.4	7.8	11.7	7.8	13.6	8.7	15.5	5.8	1.0	13.6	11.7
女性	19歳以下 (n = 15)	46.7	20.0	40.0	−	73.3	53.3	20.0	13.3	13.3	40.0	6.7	20.0	20.0	13.3	−	−
	20～29歳 (n = 41)	53.7	36.6	51.2	4.9	58.5	58.5	12.2	26.8	17.1	34.1	4.9	24.4	31.7	14.6	2.4	2.4
	30～39歳 (n = 70)	48.6	40.0	54.3	5.7	62.9	47.1	22.9	14.3	14.3	30.0	8.6	30.0	24.3	24.3	5.7	−
	40～49歳 (n = 78)	52.6	44.9	48.7	15.4	59.0	47.4	29.5	21.8	26.9	20.5	12.8	25.6	20.5	23.1	5.1	−
	50～59歳 (n = 88)	62.5	42.0	46.6	12.5	52.3	26.1	18.2	23.9	22.7	12.5	6.8	10.2	21.6	12.5	8.0	−
	60～69歳 (n = 94)	55.3	28.7	47.9	9.6	39.4	23.4	9.6	31.9	21.3	13.8	13.8	19.1	14.9	7.4	7.4	2.1
	70歳以上 (n = 140)	57.1	43.6	45.0	21.4	50.7	26.4	20.0	32.1	20.7	22.9	17.9	18.6	16.4	2.9	5.0	2.9

食品の選択や調理について身につけたい知識としては、「健康に配慮した料理の作り方」（48.3%）、「簡単にできる料理の作り方」（45.2%）、「食品の保存の方法」（41.0%）の 3 つが 40%を超え、以下、「食中毒の予防」（36.4%）が 30%台でつづいています。

●身体活動・運動について

1　汗をかく程度の運動(ウォーキング、ジョギング、スポーツなど)をどのくらいしていますか。



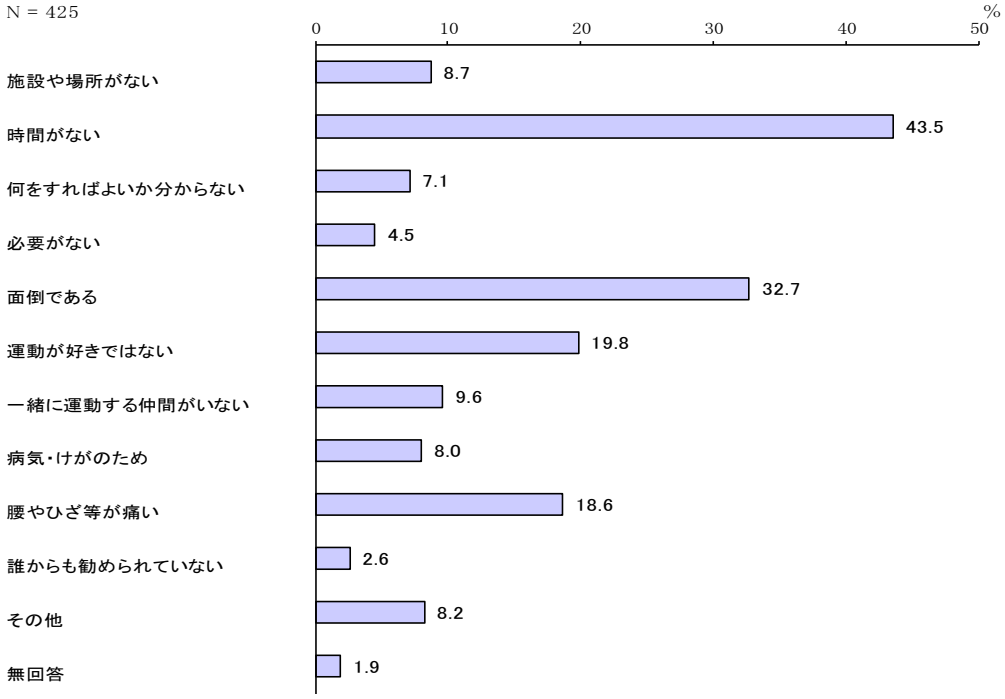
〔性・年齢別〕

		ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	ほとんどしていない	無回答
男性	19歳以下 (n = 7)	42.9	14.3	14.3	28.6	−
	20～29歳 (n = 20)	20.0	5.0	25.0	50.0	−
	30～39歳 (n = 47)	14.9	6.4	29.8	48.9	−
	40～49歳 (n = 55)	3.6	14.5	30.9	50.9	−
	50～59歳 (n = 55)	10.9	1.8	27.3	60.0	−
	60～69歳 (n = 60)	23.3	10.0	23.3	43.3	−
	70歳以上 (n = 103)	21.4	17.5	26.2	32.0	2.9
女性	19歳以下 (n = 15)	13.3	−	26.7	60.0	−
	20～29歳 (n = 41)	2.4	9.8	17.1	70.7	−
	30～39歳 (n = 70)	8.6	2.9	18.6	70.0	−
	40～49歳 (n = 78)	6.4	7.7	21.8	64.1	−
	50～59歳 (n = 88)	9.1	13.6	28.4	47.7	1.1
	60～69歳 (n = 94)	7.4	22.3	28.7	41.5	−
	70歳以上 (n = 140)	17.1	23.6	24.3	32.9	2.1

汗をかく程度の運動の頻度をみると、「ほとんどしていない」の割合が 48.1%と最も高く、次いで「週に１～２日」の割合が 24.9%、「週に３～４日」の割合が 13.1%となっています。「ほぼ毎日」が 13.0%、「週に 3～4 日」が 13.1%、「週に 1～2 日」が 24.9%となっており、これらを合わせた“週 1 日以上”運動している人の割合は 51.0%となっています。

性・年齢別にみると、男性は 50 歳代で“週 1 日以上”運動している人が他の年代と比べ少なくなっています。一方、女性は 50 歳以上では“週 1 回以上”運動していると回答している人が 5 割以上となっています。

2　（上記１で「ほとんどしていない」とした方について）運動をしない理由は何ですか。



〔性・年齢別〕

		施設や場所がない	時間がない	何をすればよいか分からない	必要がない	面倒である	運動が好きではない	一緒に運動する仲間がいない	病気・けがのため	腰やひざ等が痛い	誰からも勧められていない	その他	無回答
性別	男性 (n = 157)	8.9	46.5	7.6	7.0	33.8	12.7	9.6	6.4	18.5	3.2	7.0	1.9
	女性 (n = 266)	8.6	41.4	6.8	3.0	32.3	24.1	9.8	9.0	18.8	2.3	9.0	1.9
男性	19歳以下 (n = 2)	－	100.0	－	－	50.0	－	－	－	－	－	－	－
	20～29歳 (n = 10)	10.0	60.0	10.0	－	30.0	20.0	－	－	20.0	－	30.0	－
	30～39歳 (n = 23)	17.4	73.9	8.7	4.3	43.5	8.7	21.7	4.3	13.0	8.7	8.7	－
	40～49歳 (n = 28)	14.3	50.0	7.1	3.6	42.9	10.7	7.1	3.6	14.3	3.6	3.6	－
	50～59歳 (n = 33)	9.1	51.5	9.1	－	45.5	18.2	15.2	6.1	18.2	－	3.0	－
	60～69歳 (n = 26)	3.8	42.3	7.7	15.4	23.1	19.2	7.7	7.7	23.1	－	3.8	3.8
	70歳以上 (n = 33)	3.0	15.2	6.1	15.2	15.2	6.1	3.0	12.1	24.2	6.1	9.1	6.1
女性	19歳以下 (n = 9)	22.2	88.9	－	22.2	33.3	11.1	11.1	－	－	－	－	－
	20～29歳 (n = 29)	27.6	48.3	6.9	－	51.7	31.0	10.3	3.4	3.4	－	3.4	3.4
	30～39歳 (n = 49)	6.1	65.3	8.2	－	49.0	20.4	4.1	2.0	2.0	－	16.3	－
	40～49歳 (n = 50)	10.0	50.0	8.0	2.0	40.0	30.0	14.0	2.0	14.0	6.0	8.0	－
	50～59歳 (n = 42)	4.8	40.5	9.5	2.4	28.6	31.0	7.1	14.3	19.0	－	4.8	－
	60～69歳 (n = 39)	2.6	23.1	2.6	7.7	15.4	20.5	10.3	15.4	25.6	2.6	10.3	5.1
	70歳以上 (n = 46)	4.3	10.9	6.5	2.2	13.0	17.4	13.0	17.4	45.7	4.3	10.9	4.3

「時間がない」の割合が 43.5%と最も高く、次いで「面倒である」の割合が 32.7%、「運動が好きではない」の割合が 19.8%となっています。

性・年齢別にみると、男性では 30 歳代で「時間がない」が特に多くなっています。女性では、30 歳代で「時間がない」「面倒である」がほぼ半数を占め、「腰やひざ等が痛い」は女性 70 歳以上で特に多くなっています。

第２次大和市食育推進計画策定の経過

平成 30 年

- ４月　大和市食育推進チーム部会（第１回）
- ５月　第１回　大和市食育・歯及び口腔の健康づくり推進会議
  食育・歯及び口腔の健康づくりに関する市民意識調査
  対象：2,500 名　　回収：884 名　　回収率：35.4％
  大和市食育推進チーム部会（第２回）
- ６月　大和市食育推進チーム部会（第３回）
- ７月　大和市食育推進チーム部会（第４回）
- ８月　大和市食育推進チーム部会（第５回）
- ９月　大和市食育推進チーム部会（第６回）
  学識経験者への意見聴取
  相模女子大学栄養科学部健康栄養学科　堤ちはる　教授
  神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科　田中和美　教授
  関係団体への意見聴取
  大和市健康普及員連絡協議会、大和市食生活改善推進協議会
- 10 月　第２回　大和市食育・歯及び口腔の健康づくり推進会議
  大和市食育推進チーム部会（第７回）
- 12 月　市民意見公募手続（パブリックコメント）

平成 31 年

- １月　大和市食育推進チーム部会（第８回）
  大和市食育・歯及び口腔の健康づくり推進会議（第 3 回）
- ３月　市議会への情報提供

市民意見公募結果

実 施 期 間：平成 30 年 12 月 15 日（土）～平成 31 年 1 月 18 日（金）
計画の配架等：本庁舎情報公開コーナー、保健福祉センター健康づくり推進課、市民課分室及び連絡所
各学習センター、各コミュニティセンター、市ホームページ
応 募 結 果：提出者　３　名　　意見件数　３　件

大和市食育・歯及び口腔の健康づくり推進会議設置要領

（目的）

第１条　この要領は、大和市食育推進計画及び大和市歯及び口腔の健康づくり推進計画（以下「推進計画」と総称する。）を推進するために、庁内関係課の連携及び協力を図る大和市食育・歯及び口腔の健康づくり推進会議（以下「推進会議」という。）の設置及び運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（所掌事務）

第２条　推進会議は、次に掲げる事項について協議、検討等を行う。

(1) 推進計画に掲げる具体的な取組に関すること。

(2) 複数の課が連携する取組の調整に関すること。

(3) 推進計画の評価及び改定に関すること。

(4) その他、推進会議で必要と認めたこと。

（委員）

第３条　推進会議は、推進計画主管課、別表１に掲げる課等の課長（以下「委員」という。）をもって構成する。

（会長及び副会長）

第４条　推進会議に会長及び副会長を置き、会長は推進計画主管課の課長をもって充て、副会長は会長が指名する。

２　会長は、推進会議を代表し、会務を総理する。

３　副会長は、会長を補佐し、会長が欠けたとき、又は会長に事故があるときは、その職務を代行する。

（推進会議の招集等）

第５条　推進会議は、必要に応じて会長が招集する。

２　推進会議は、必要があるときは委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（部会）

第６条　推進会議には部会として次に掲げるチームを設置し、各チームの構成員には別表２に掲げる課の担当者をもって充てる。

(1) 食育推進チーム

(2) 歯及び口腔の健康づくり推進チーム

２　前項に掲げるチームにチームリーダーを置き、チームリーダーは会長が指名する。

３　チームリーダーはチームを掌理し、チームで協議、検討した結果を推進会議に報告しなければならない。

（庶務）

第７条　推進会議の庶務は、推進計画主管課が行う。

（その他）

第８条　この要領に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は推進会議で協議して定める。

別表第１（第３条関係）

別表第２（第６条関係）

附則

この要領は、平成 28 年 10 月 1 日　から施行する

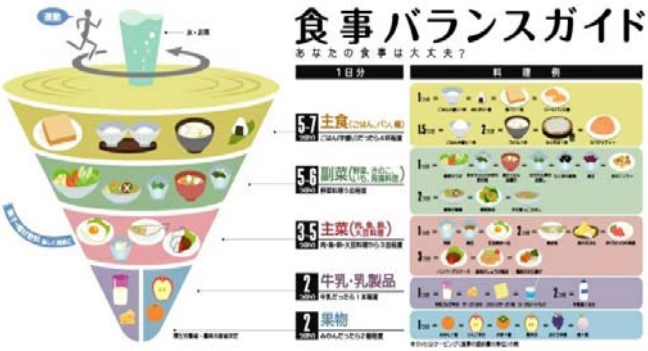
用語解説

遺伝子組換食品	生物の細胞から有用な性質を持つ遺伝子を取り出し、植物などの細胞の遺伝子に組み込むことを遺伝子組換えといい、その作物を原料とした食品。
栄養機能食品	栄養成分(ビタミン・ミネラル)の補給のために利用される食品で、栄養成分の機能を表示するもの(食品衛生法施行規則第 21 条第 1 項第 1 号シ)。
栄養教諭	児童・生徒の栄養の指導及び管理をつかさどる教員。 (学校教育法第 37 条 13 号)
栄養表示	生鮮食品を除く食品および鶏卵への栄養表示を標準化することで、欠乏しがちな栄養を補い、過剰になりがちな栄養を抑え、バランスのとれた食生活を支援するための、工業規格(健康増進法第 31 条第 1 項)。
介護予防	高齢者が要介護状態になるのを防ぐことや、要介護状態の人が悪化するのを防ぎ、改善を図ること。
加工食品	農産物，畜産物，水産物などを原料とし種々の処理加工や調理により製造された食品の総称のことです
完全給食	パン又は米飯（これらに準ずる小麦粉食品、米加工食品その他の食品を含む。)、ミルク及びおかずである給食。
既往歴	過去の病歴や健康状態に関する記録。
食物アレルギー	食事をしたときに、身体が食物（に含まれるタンパク質）を異物として認識し、自分の身体を防御するために過敏な反応を起こすこと。
生活習慣病	生活習慣（食、運動、喫煙、飲酒、休養など）が発症原因に深く関与していると考えられている疾患の総称。 糖尿病、高血圧、脂質異常症、心疾患や脳卒中がある。

共同調理場	公立小中学校で給食調理室がない学校の給食を数校分まとめて調理する施設。大和市では、北部・中部・南部の３か所設置。
共食	食を共にすること、一緒に食べることだけでなく、会話をすることも含む。
血糖値	血液中のグルコース（ブドウ糖）の濃度。
健康寿命	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。
誇大表示	食品として販売に供する物に関して、広告その他の表示をする際、健康の保持増進の効果等について必ずしも実証されていないにも関わらず、その効果を期待させる虚偽・誇大な表示をすること。
残食率	提供した食事の重量に対する、食べ残した重量の割合。
食生活改善推進員	ヘルスメイトの愛称で呼ばれ、地域で食生活改善や健康づくりのボランティア活動を行う人たち。推進員になるには、市町村が実施する食生活改善推進員養成講座を修了する必要がある。
食品添加物	保存料、甘味料、着色料、香料など、食品の製造過程または食品の加工・保存の目的で使用されるもの。
特定保健指導	特定健診で、メタボリックシンドローム予備群に該当した人が、生活習慣病予防のために受ける保健指導。
内臓脂肪	体脂肪のうち、内臓の周囲についた脂肪のこと。内臓脂肪が多い内蔵型肥満は、生活習慣病になりやすいと言われている。

生活不活病（廃用症候群）	病床での寝たきり状態や安静状態が長期に渡って続くことによって起こる、さまざまな心身の機能低下等。
単独調理校	公立小学校で、自校の給食を調理する給食調理室を備えた学校のこと。大和市では、小学校８校が該当する。
地域活動栄養士	地域で母子保健、生活習慣病予防、介護予防の観点から、食生活改善のサポートをしている在宅の管理栄養士・栄養士。団体に所属して、活動していることが多い。
地産地消	地域生産地域消費の略称で、地元でとれた生産物をその地域で消費すること。
低栄養（状態）	健康な体を維持し、活動するために必要なエネルギーとたんぱく質が欠乏した状態。
低出生体重児	出生体重が 2,500g 未満の新生児。1,500g 未満を極低出生体重児、1,000g 未満を超低出生体重児といい、低出生体重児には極低出生体重児、超低出生体重児を含む。
食事バランスガイド	1 日に、「何を」、「どれだけ」食べたらよいかを考える際の参考になるよう、食事の望ましい組み合わせとおおよその量をイラストでわかりやすく示したもの。 健康で豊かな食生活の実現を目的に策定された「食生活指針」（平成 12 年 3 月）を具体的に行動に結びつけるものとして、平成 17 年 6 月に厚生労働省と農林水産省が決定。

中食（なかしょく）	市販の惣菜や弁当など、そのまま食べられるものを購入して家庭に持ち帰ったり、届けてもらったりして家庭内で食べる食事のこと。
ＢＭＩ	ボディ・マス・インデックス（Body Mass Index）の略称で、体重と身長の関係から算出される肥満度を表す体格指数のこと。
ブドウ糖	果実のほか、ハチミツなどに多く含まれている単糖類の一種。ご飯やパンなどの炭水化物が、体内の消化酵素によって細かく分解されることでも産出される。
訪問栄養指導	通院などが困難な人のために、管理栄養士が家庭に定期的に訪問して行う、 療養上に必要な栄養や食事の管理及び指導。
メタボリックシンドローム	内臓脂肪型肥満（腹囲が男性で 85 cm以上、女性で 90 cm以上）に、高血糖・高血圧・脂質異常の 3 つのうち 2 つ以上が重なった状態。
フレイル	加齢とともに心身の活力（運動機能や認知機能等）が低下し、複数の慢性疾患の併存などの影響もあり、生活機能が障害され、心身の脆弱性が出現した状態。適切な介入・支援により、生活機能の維持向上が可能な状態像。



引用：農林水産省ホームページ（http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/syokuikujissenn-tiikibg.html）